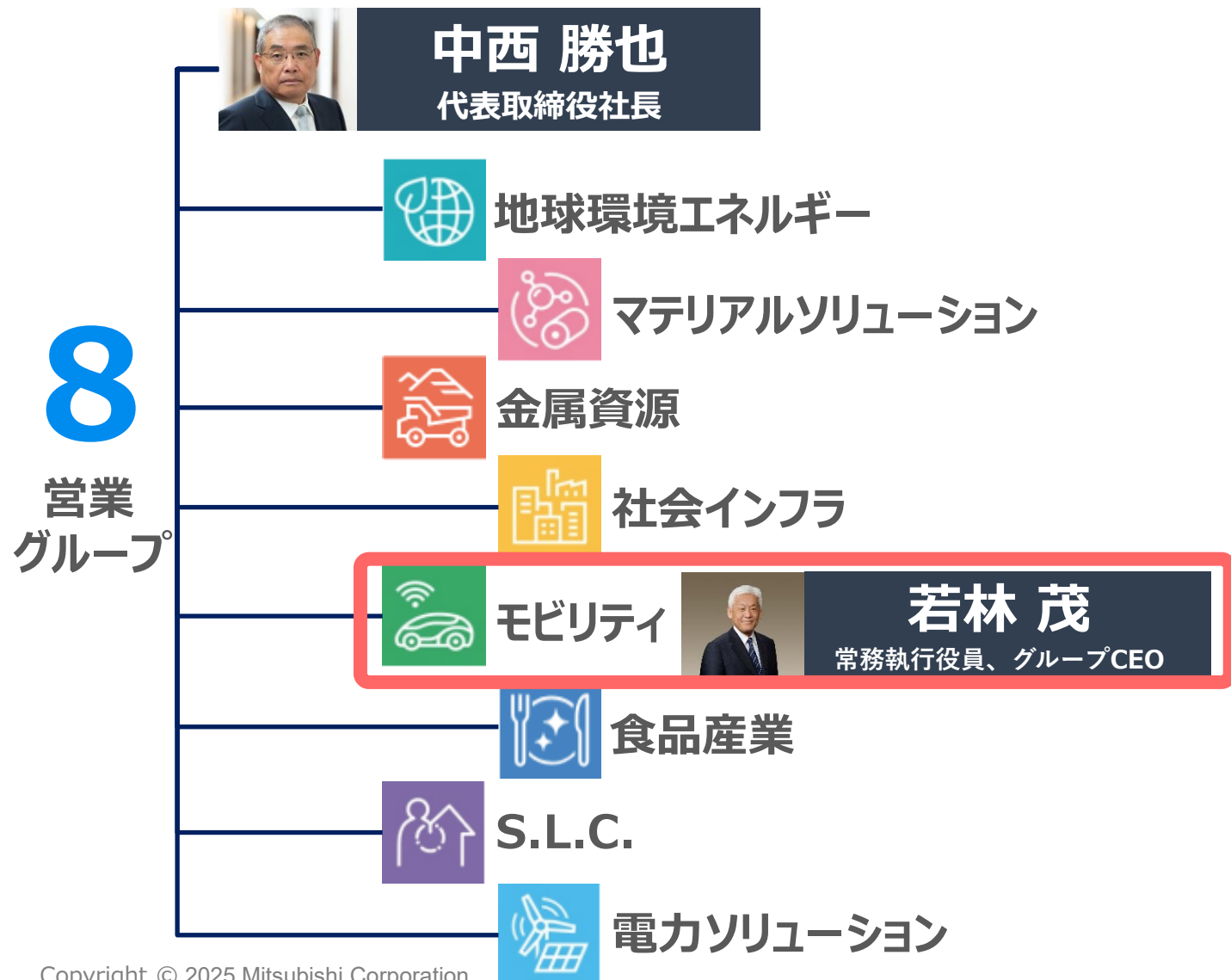


タイにおける投資体験、未来に向けて

2025年2月20日
三菱商事株式会社
常務執行役員 モビリティグループCEO
若林 茂

1. 三菱商事株式会社とは

- 三菱商事は、世界中に広がる当社の拠点と約1,300の連結事業会社と協働しながらビジネスを展開しています



三菱商事について

全社拠点数

118

グループ会社数

1,318

従業員数

5,421

連結ベース

80,037

連結売上高

135

連結純利益

6.7

(単位: 10億米ドル)

設立

1954

Head Office

Tokyo, Japan

2.自己紹介



若林 茂
(Shigeru Wakabayashi)

1986年 三菱商事入社

1987-1989年 タイ語学研修(2年間)

1994-2001年 タイ駐在(8年間)

2004年 ドイツ駐在

2007-2010年 タイ駐在(4年間)

2012年 インド駐在

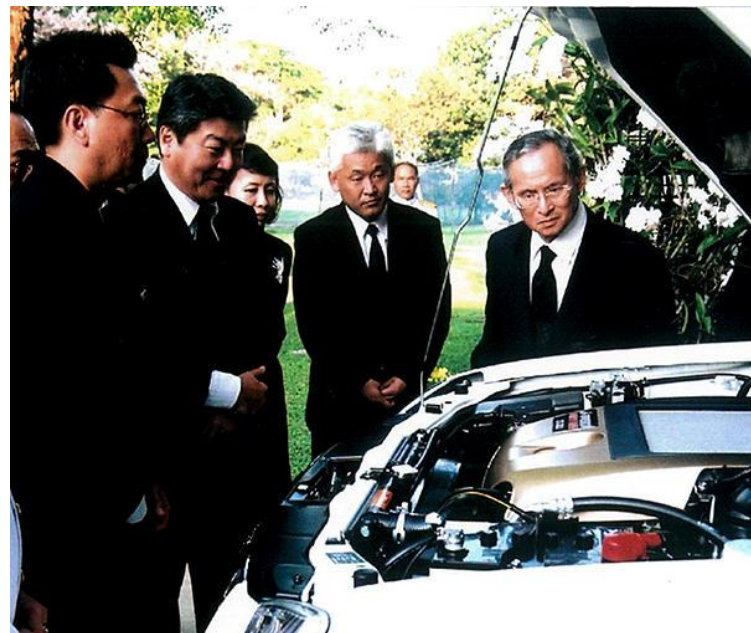
2016年 三菱商事・本部長

2018年 三菱商事・執行役員

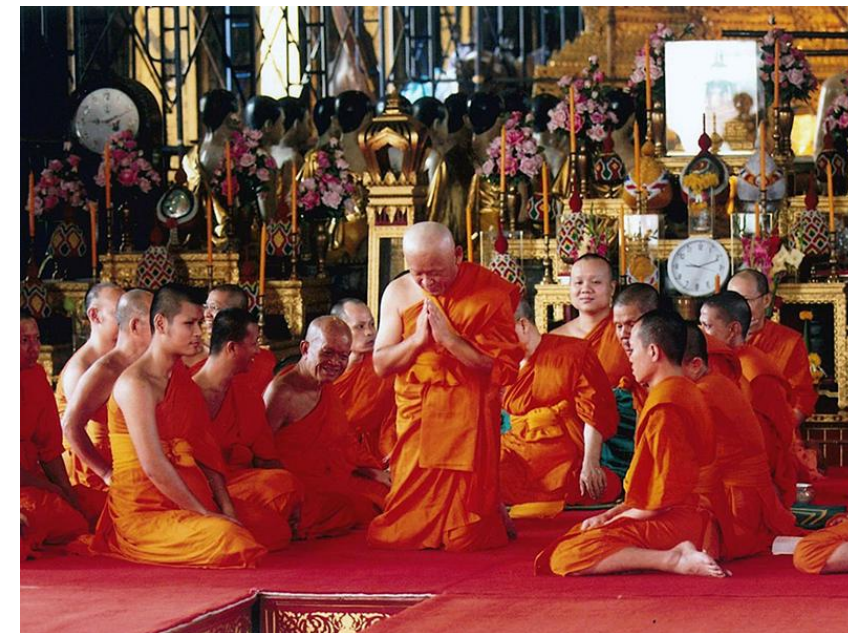
2022年 三菱商事・常務、モビリティグループCEO

タイ駐在回数 **3** 回、通算駐在歴 **14** 年

タイの国産化エンジンプロジェクト担当
タイ国内の販売担当
ドイツやインドでタイ製自動車売り歩く



タイ前国王(ラマ9世)に新モデルを献上



大勢のディーラーさんが見守る中での出家式

3.タイでの三菱商事の事業展開

- いすゞ自動車との生販共同事業を中心に、鋼材・鋼板、ブリヂストンとの協業など広範なバリューチェーンを形成
- エネルギー領域では、電力・ガスでの事業展開、リテイルではローソン、ユニクロとの事業を展開

70社、46グループ

従業員20,000人超

5 事業領域

事業歴 65年超



モビリティ

□ TRI PETCH ISUZU SALES (自動車卸売)

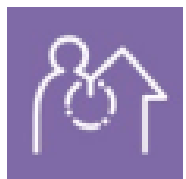
□ IMCT (いすゞ車両の生産統括)

ISUZU

□ IMIT (いすゞ車両の全世界向け輸出)

□ MC Logistics (物流)

□ BRIDGESTONE



コンシューマー

□ UNIQLO

□ SAHA LAWSON



食料

□ NISSHIN (即席麺製造)



□ ABC (肉加工・販売)

□ MCLS (低カロリー甘味料製造)

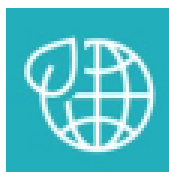


マテリアルソリューション

□ MSAT (鋼材・鋼板卸売)

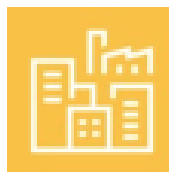
□ IVICT (化学品取引)

□ DMET (自動車向けプレス部品製造)



地球環境エネルギー

□ DGI Thailand (LNG)



インフラ

□ EGCO w/EGAT (電力IPP)

□ NDT (中古建設機械レンタル)

□ MC TECHNOS (産業機械販売)

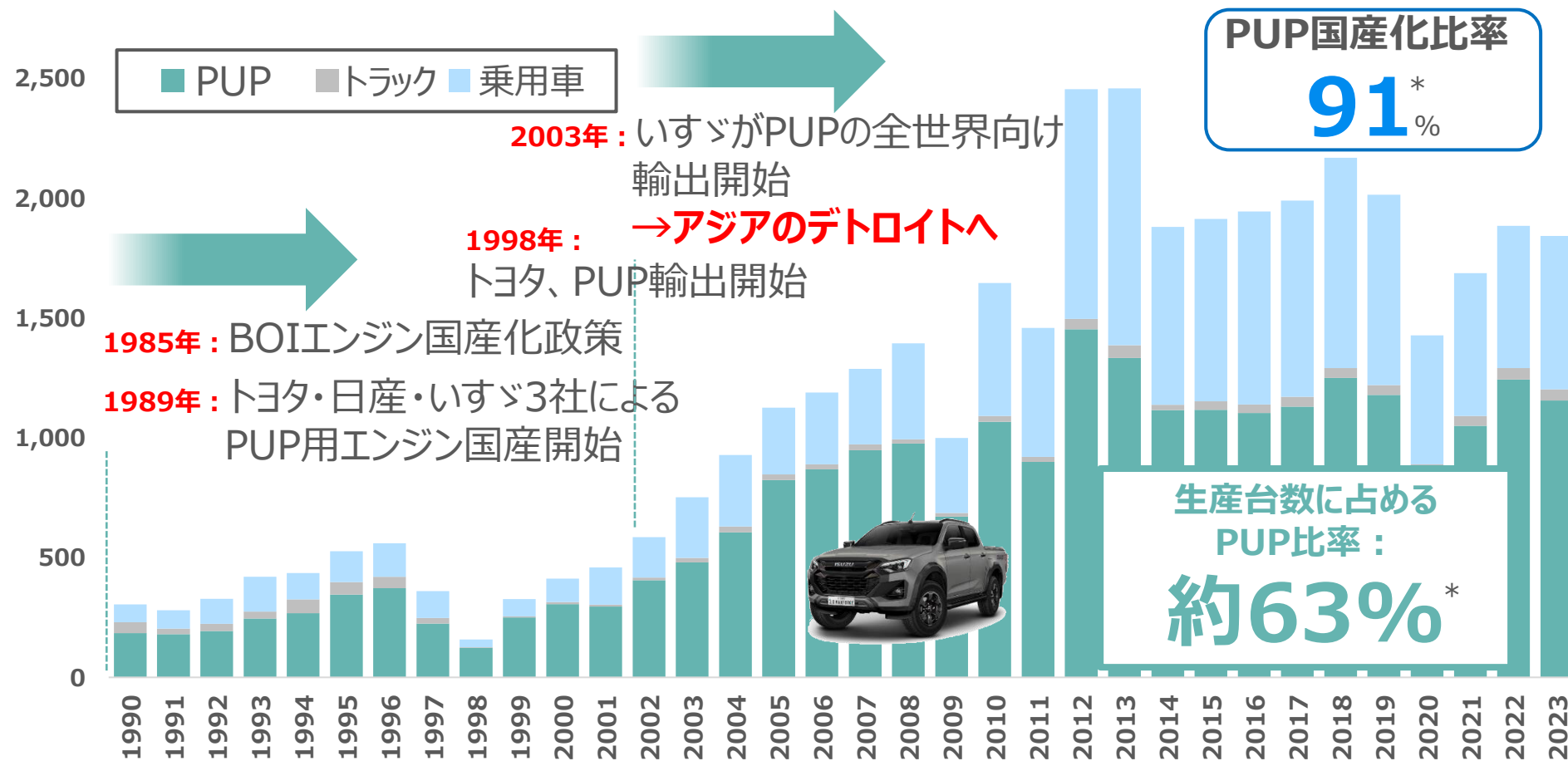


4.タイの自動車産業の発展

- いすゞ自動車との事業は1957年開始、タイ政府・BOIの適切な産業政策と見事にシンクロし、成長を実現
- 特にピックアップトラック(PUP)の国産化政策はタイを世界有数の自動車・生産輸出国に押し上げた

単位(千台)
3,000

タイの自動車総生産台数推移



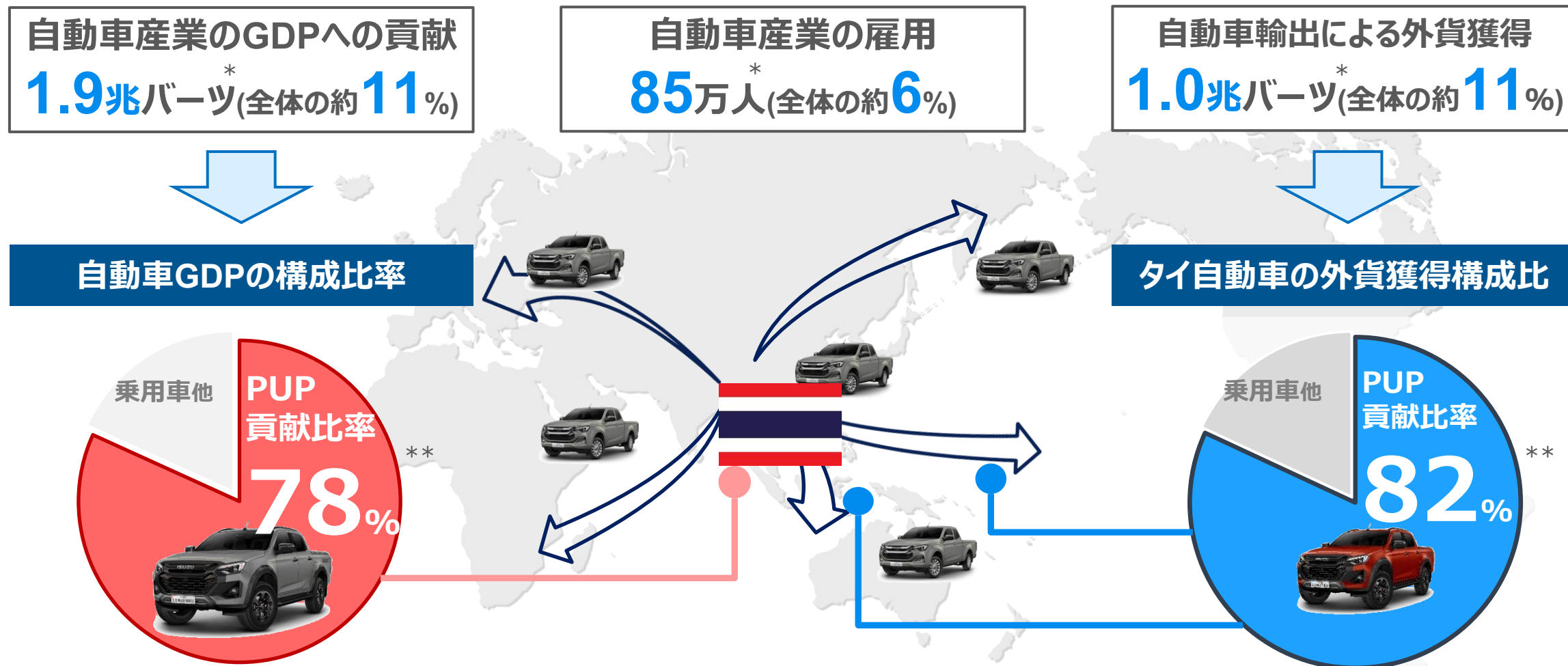
タイの国民の生活必需品PUPは、世界向けに輸出され、「チャンピオン・プロダクト」へ



*JCC, FTI資料より

5.タイの自動車産業の貢献度・規模感

- タイ自動車産業はタイGDP全体の11%を占める基幹産業、中でもピックアップトラック(PUP)は高い国産化率(91%)を誇り、GDP、雇用創出、外貨獲得全てにおいて高い貢献を果たしている



6.まとめ：タイの自動車産業の成功→三菱商事の投資の成功 Mitsubishi Corporation

「成功要因」

1. タイ国内の大きなピックアップトラック市場において、タイのお客様の厳しい要求に合った良い商品を、日系自動車メーカー同士が切磋琢磨して開発・生産する環境が整っていたこと
2. タイ製ピックアップトラックがグローバルにも受け入れられる商品となり、輸出が促進され、外貨獲得が進み、次の研究開発費や設備投資に充て、雇用が創出されるというポジティブなスパイラルを生み出したこと
3. タイ政府と日系自動車及び自動車部品メーカー、そしてタイ系自動車部品メーカーとが生産・輸出国を目指し、非常に近い距離で、緊密に連携することができたこと
4. 自動車業界のトレンドや規制などに、タイ政府が非常に柔軟、且つ迅速に対応してきたこと



ROYAL THAI
GOVERNMENT



タイのお客様に
愛される生活必需品



いすゞ車の全世界輸出
(2003年)



タイいすゞ累計生産6百万台
(2023年)

7.未来に向けて：カーボンニュートラルに向けたマルチパスウェイ Mitsubishi Corporation

- 自動車産業は100年に1度の大変革期、CASEの進展、カーボンニュートラルへの対応、AIの進展に伴うSDV
- カーボンニュートラル対応は電動化に加え、再エネ普及、燃料の脱炭素化など、マルチパスウェイでの取組みが鍵
- モビリティ単体では解決できず、エネルギー業界との連携も重要

Carbon Neutral



再エネ電力



次世代燃料



次世代
エネルギー

×

×

×

BEV

PHEV

ICE

H2 ICE

FCEV



いすゞEVピックアップ
25年からタイ生産／輸出開始



いすゞバッテリー交換式トラック
25年よりタイで実証開始



PTT社との廃油由来の水素化植物油(HVO)
混合率30%で2万km走行実証



8.未来に向けて：エネルギー領域での取り組み

- EGATとの長期的な関係に加え、タイ初IPPのEGCOでの再エネ発電推進、更にEGATとのグリーン水素共同研究を推進中、更にBLCP社の石炭火力発電へのアンモニア混焼によるCO2削減を取組み中
- タイ政府による電力施策に基づき、タイいすゞ工場でのDirect PPAによる再エネ電力調達を準備中

グリーン発電

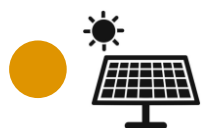


総発電容量



68.9
MWe

風力



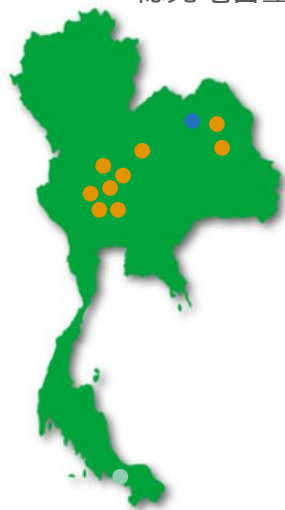
133.5
MWe

太陽光



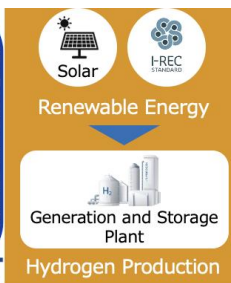
10.1
MWe

バイオマス



グリーン水素・アンモニア活用

EGATとのグリーン水素共同研究



アンモニア混焼及びCCUに係るスタディ



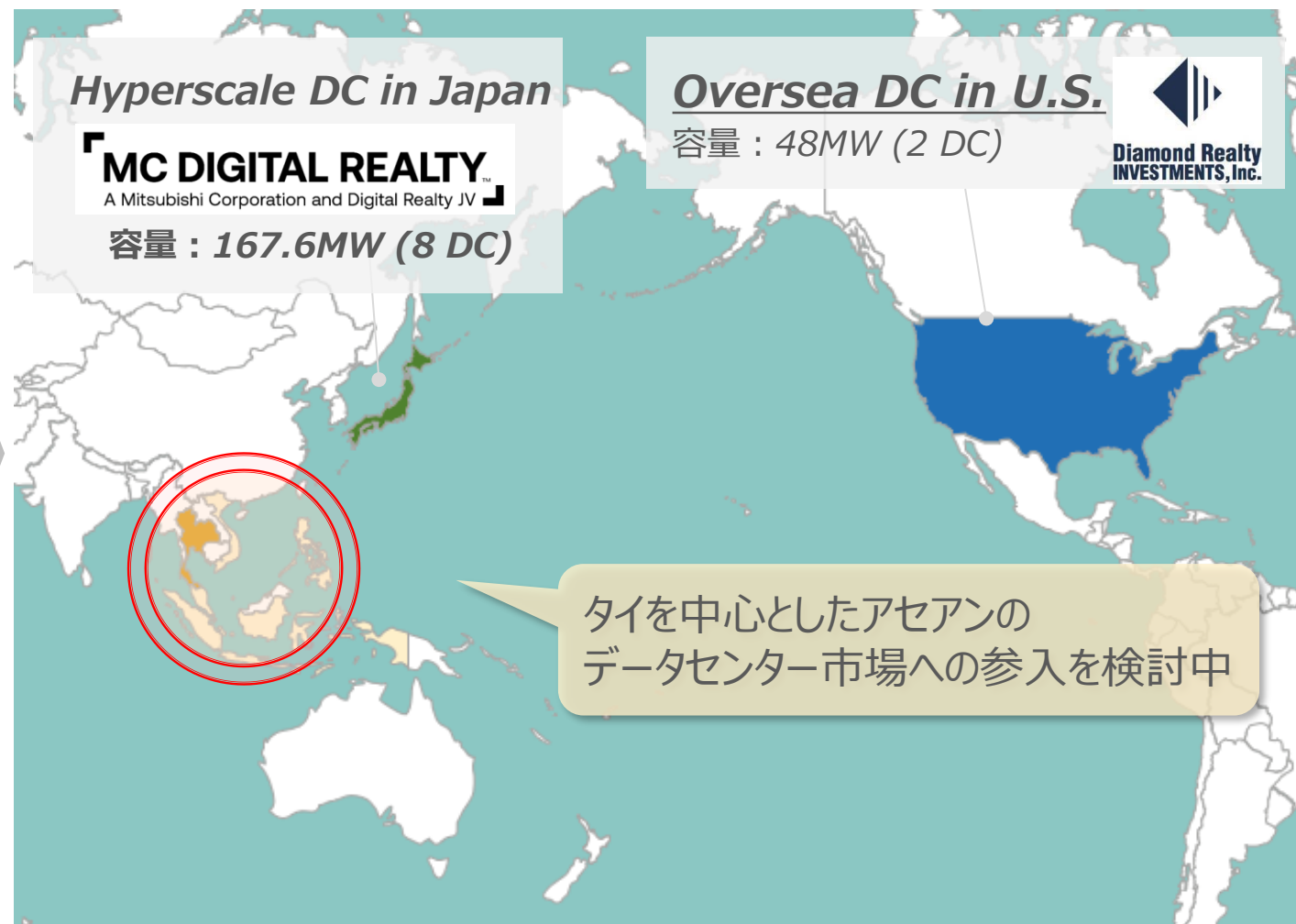
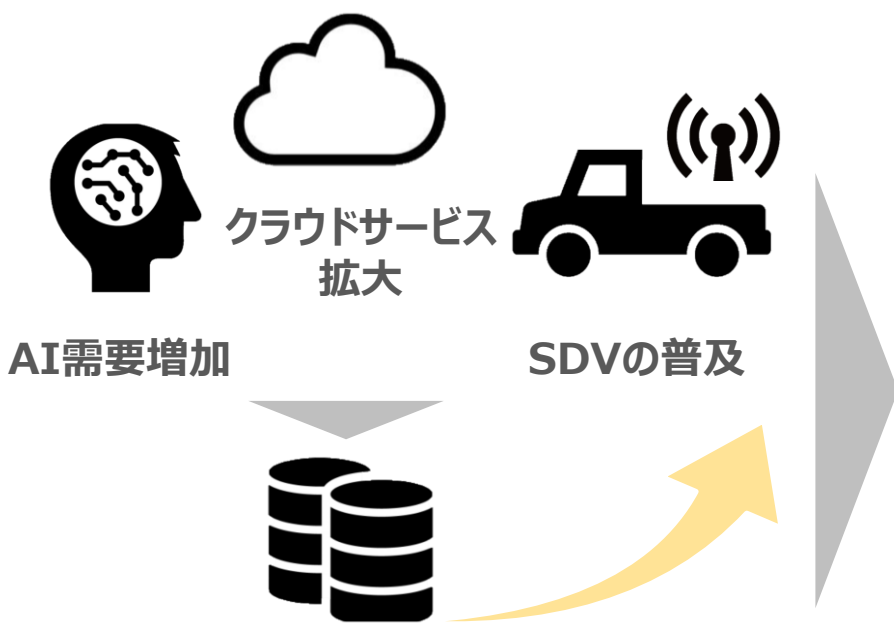
再エネ調達(Direct PPA)

タイ政府によるDirect PPA(2000MW) 枠承認に基づき、タイいすゞサムロン工場で使用する再エネ調達準備中



9.未来に向けて：データ領域での取り組み

- 自動車ではSDV開発やAI活用が待ったなしで進行中。
- 生活、産業ともにAI需要の増加に伴い、データ量が飛躍的に増加する見込み
- 大手ハイパースケーラーが続々とタイへの参入を表明する中、三菱商事もタイを中心としたアセアン地域を検討中



10.最後に、タイという国の可能性

- タイ政府は数多くの自動車メーカーが雇用創出、外貨獲得しやすい環境を整えるべく、民間企業の声に丁寧に耳を傾け、また内外の様々な変化に柔軟に対応し、タイに高い競争力を持つ自動車生産・輸出インフラを築いてきた
- 今後、自動車のCASEの進展、更にSDV化などの進化を遂げていく中でも、タイという国が自動車の国産化、そして輸出のインフラを持ち、生産・輸出国としての競争力が続くという前提の下、三菱商事もその政策に沿って、電動化関連、エネルギー関連、そしてデータ関連の投資を行なう
- タイには引き続き大きなオポチュニティがあると確信する

